

④ 学生の進路、就職活動プロセス実施状況

学生の進路決定状況や、入社先への納得度、活動期間は？

8割が民間企業に就職、5割が第1志望群に入社予定

民間企業等を対象に就職活動を行った学生のうち、2020年11月時点で民間・民間以外を問わず就職先が確定している学生は87.2%（グラフ①）。コロナ禍で採用人数の減少も見られたが、20年卒（87.7%）と同水準だった。一方、「まだ確定している進路はない」は7.5%で、前年（5.1%）からわずかに増加した。

就職先が確定している学生のうち、当初からの第1志望群に入社予定の学生は50.5%で、前年（52.8%）と同水準だった。1社以上内定を取得した学生の平均取得社数は2.17社で、18年卒の

2.54社から年々減少している（グラフ②）。

「就職活動開始当初に不安だったこと」と「実際に困ったこと」を聞いたところ（※）、いずれも、「就職したいと思える企業や組織等から内定が得られるかどうか」を挙げる学生が最も多かった（それぞれ86.8%、77.9%）。20年卒に比べて大きく増えたのは、「就職活動中の景気動向によって不利になる」で、就職活動開始当初の不安として65.5%（前年比18.6ポイント増）が、就職活動中に実際に困ったこととして68.0%（前年比36.4ポイント増）が挙げている。

就職先が確定している学生に入社予定企業等に就職することを納得しているか聞いたところ、「あてはまる」（33.1%）、

「どちらかというあてはまる」（44.7%）を合わせた「あてはまる・計」は77.8%（グラフ③）。景気動向への不安やコロナ禍であるにもかかわらず、前年（75.4%）から2.4ポイント増加した。インターンシップ参加経験別に見ると、「インターンシップ参加経験あり」の「あてはまる・計」は81.7%、「インターンシップ参加経験なし」の「あてはまる・計」は66.8%と、参加経験のある学生の方が納得している割合が高かった。

活動開始時期は前倒し傾向

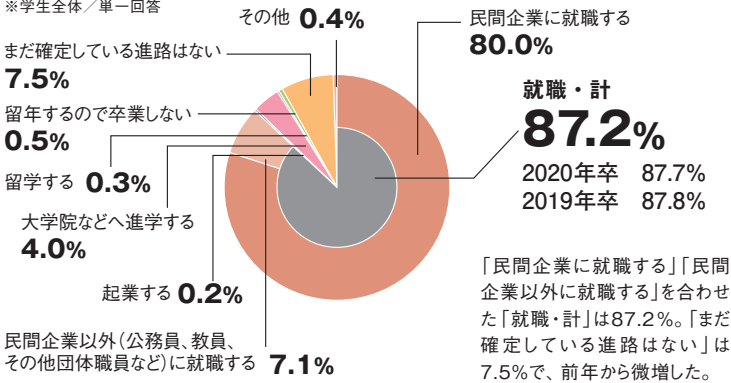
次に、活動時期・期間について見る。就職活動の開始時期は、卒業年次前年の「6月以前」が26.1%で、20年卒

※就職活動状況調査2021年卒（2020年5月実施）

学生 約87%の学生が就職先を確定

① 卒業後の進路確定状況（2020年11月時点）

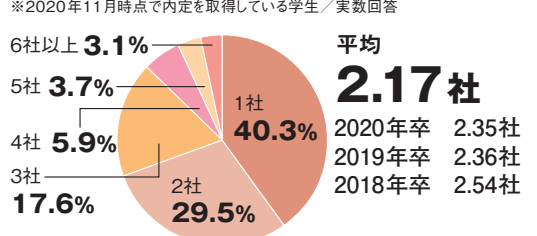
※学生全体／単一回答



学生 約6割が複数の企業から内定を取得

② 内定を取得した企業数

※2020年11月時点で内定を取得している学生／実数回答



複数の企業から内定を取得した学生は59.8%。20年卒は59.6%、19年卒は60.1%、18年卒は59.5%で、ここ4年ほど約6割で推移している。

学生 約78%が、入社予定企業へ就職することに納得

③ 入社予定企業・組織等へ就職することへの「納得している」度合い ※就職先確定者／単一回答

■ あてはまる ■ どちらかというあてはまる □ どちらともいえない ■ どちらかというあてはまらない ■ あてはまらない

納得している	← あてはまる →				あてはまらない →	
	あてはまる	あてはまらない	あてはまる・計	あてはまらない・計	割合	割合
2021年卒	33.1	44.7	77.8	17.4	3.3	4.8
2020年卒	31.3	44.1	75.4	19.6	3.8	5.1
2019年卒	25.7	41.7	67.4	24.4	5.9	8.3

入社予定企業等に就職することへの「納得している」度合いは年々高まっている。なお、就職活動開始当初の志望度別に見ると、「当初からの第1志望群」に入社予定の学生の「あてはまる・計」は82.9%で前年並み。「当初は第2志望以下の志望群」の「あてはまる・計」は79.4%で、前年（71.2%）から8.2ポイント増加した。



(17.9%)から8.2ポイント増加した(グラフ④)。卒業年次前年の2月までの累計は76.2%で、20年卒(65.8%)から10.4ポイント増加しており、前倒し傾向が見られる。

実質活動期間は平均7.80カ月で、20年卒(平均6.38カ月)より1.42カ月長かった(表⑤)。ここ3カ年で見ると、年々長くなっている。インターンシップ参加経験の有無別に見ると、インターンシップ参加経験がある学生は平均8.39カ月、ない学生は平均6.15カ月と、参加経験のある学生の方が長かった。

約半数が面接、内定後の面談の対面実施を希望

次に、活動プロセスの手段などについて見る。

就職先が確定した学生に、就職活動の各プロセスにおけるWeb・対面での実施経験を聞いたところ、「Web・対面どちらも実施」したのは、「個別企業・各種団体等の説明会・セミナー」では64.8%、「面接選考」では71.5%、「内定後の面談」では45.0%だった(表⑥)。

各プロセスにおいて「Web・対面どちらも実施」経験のある学生に、Webと対面のどちらがよいか聞いたところ、「個別企業・各種団体等の説明会・セミナー」は「Webの方がよい・計(*)」が55.8%、「面接選考」は「対面の方がよい・計(*)」が53.7%、「内定後の面談」は「対面の方がよい・計(*)」が56.4%だった。「面接選考」や「内定後の面談」について「対

面の方がよい」と回答した学生からは、Webで実施する際の通信環境・機材の問題や、「対面の方が自分を分かってもらえる」「対面の方が企業の雰囲気をつかみやすい」などの理由が挙げられた。

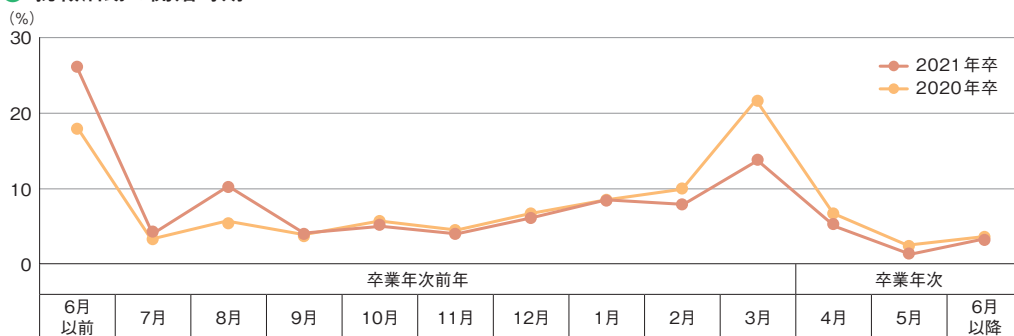
また、学生が応募した、または応募予定の企業の採用活動の方法・形態について聞いたところ、最も多かったのは「誰でもエントリー可能な採用」で81.0%。次に、「長期(1カ月以上)、または短期(1カ月未満)インターンシップからの採用」(25.0%)、「人材紹介サービスを通じた採用」(14.5%)が続いた(複数回答)。インターンシップからの採用は、19年卒では22.0%、20年卒では22.2%で、徐々に増えている。

※「よい」「どちらかというどよい」の合計

学生

約26%が卒業年次前年の6月以前に活動を開始

④ 就職活動の開始時期 ※就職活動終了者/単一回答



卒業年次前年の「6月以前」に開始した学生は、26.1%。属性別に見ると、「理系・女性」(33.2%)、「理系・男性」(27.4%)、「文系・女性」(24.8%)、「文系・男性」(22.8%)の順に開始割合が高かった。

学生

実質活動期間は、平均7.80カ月

⑤ 実質活動期間の平均 ※就職先確定者/実数回答

	2019年卒	2020年卒	2021年卒
学生全体	6.22カ月	6.38カ月	7.80カ月
インターンシップ参加経験			
あり	6.83カ月	7.04カ月	8.39カ月
なし	5.39カ月	5.18カ月	6.15カ月

学生全体で見ると、年々長くなっている。また、インターンシップ参加経験別に見ると、ここ3カ年を見ると、インターンシップ参加経験のある学生は、ない学生に比べて実質活動期間が長い傾向にある。

学生

約7割が、面接選考をWeb・対面どちらも経験

⑥ 就職活動プロセスのWeb・対面実施率 ※就職先確定者/単一回答

	Webのみ実施	Web・対面どちらも実施	対面のみ実施
個別企業・各種団体等の説明会・セミナー	10.8%	64.8%	24.3%
面接選考	9.1%	71.5%	19.3%
内定後の面談	28.4%	45.0%	26.6%

いずれの項目も「Web・対面どちらも実施」が最も多かった。「内定後の面談」については、「Webのみ実施」が28.4%、「対面のみ実施」が26.6%と、企業によって方法が分かれていたことがうかがえる。